

大項目 I-1 教育に関する目標

中項目 教育内容及び教育の成果等に関する目標

小項目 ①学士課程○アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜を推進する。○豊かな教養を備え、課題探求能力を有し、実践的指導力を身に付けた人材を育成するための教育を行う。○統一的で厳格な成績評価を実施し、教育目標の達成度・習熟度を正確に把握する。②大学院課程○アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜を推進する。○学生への教育研究支援を充実し、高度な専門指導者等を養成する。

中期計画
0201

受験生及び入学者の状況を調査・分析し、各種入学選抜方法及び入試広報の点検・改善を進める。

2013
年度計画01

自己評価判定 III

受験生及び入学者のデータを分析・評価し、その結果を踏まえ、各種入学選抜及び入試広報の点検・改善を進める。

中期計画
0202

高等学校等と連携し、合格者に対する入学前教育を行う。

2013
年度計画02

自己評価判定 III

推薦入試における入学前教育の実施計画を提案する。

中期計画
0203

教養教育において、コミュニケーションを重視した教育を展開する観点から、一般教育及びキャリア教育を点検し、改善する。

2013
年度計画03

自己評価判定 III

教育課程改訂検討の中でコミュニケーション科目等の内容を点検し、改善する。

中期計画
0204

専門教育において、アスリートとして、また適切な指導が行える基礎的知識・能力を持った指導者として人材育成する観点から、教育プログラムに基づきカリキュラムを点検し、改善する。

2013
年度計画04

自己評価判定 III

教育課程改訂検討の中で専門教育の内容及びコンピテンスについて検討し、改善する。

中期計画
0205

学生の社会的実践力を伸ばす観点から、学外実習科目を点検し、改善する。

2013
年度計画05

自己評価判定 III

教育課程改訂検討の中で学外実習科目の内容及びコンピテンスについて点検し、改善する。

中期計画
0206

学生の視点に立った学習指導・履修指導を推進する。

2013
年度計画06

自己評価判定 III

学生の視点に立った指導のためのアンケート結果を各教員にフィードバックし、学習指導・履修指導の点検・改善に活用する。

中期計画 0207	シラバス及び履修モデルの内容を点検し、改善する。
2013 年度計画07	自己評価判定 III 教育課程改訂検討の中でシラバス及び履修モデルの内容を検討する。
中期計画 0208	総合的な成績評価を実施するとともに、厳格な成績評価のための評価方法を点検し、改善する。
2013 年度計画08	自己評価判定 III 教育課程改訂検討の中で成績評価のあり方について検討する。
中期計画 0209	GPA方式による学生の成績評価を各種選考基準等に活用する。
2013 年度計画09	自己評価判定 III 各種選考基準・判定基準等への活用ができるGPA方式による成績評価の仕組みについて、教育課程の改訂を踏まえ検討する。
中期計画 0210	社会人や外国人留学生等、多様な人材の受入れを推進する。
2013 年度計画10-1	自己評価判定 III 外国人留学生等の受入増加策を実施するとともに、必要に応じ新たな受入増加策について検討する。
2013 年度計画10-2	自己評価判定 III 社会人の受入れを推進するため、東京サテライトキャンパスを拠点とした広報活動強化策を策定し、実施する。
中期計画 0211	専門性の向上のため、学外の有識者による特別講義を実施する。
2013 年度計画11	自己評価判定 III 学外の有識者による特別講義を実施する。
中期計画 0212	総合的な研究能力育成のため、大学院生の学内プロジェクト等への参画を推進する。
2013 年度計画12	自己評価判定 III 学内プロジェクト等へ参画するRAの任用を推進する。

中期計画 0213	国際的に活躍できる実践的能力育成のため、大学院生の国際学会等での発表を支援する。
2013 年度計画13-2	自己評価判定Ⅲ 大学院博士後期課程・修士課程学生の国内外で開催される国際学会等での発表を支援する。
2013 年度計画13-1	自己評価判定Ⅲ 修士課程のカリキュラムとして、授業の中で英語能力の向上に関する科目を開設し、教育支援を行う。
中期計画 0214	サテライトキャンパスにおける大学院教育を充実する。
2013 年度計画14	自己評価判定Ⅲ 東京サテライトキャンパスの目的に合わせた教育プログラムを実施する。
中期計画 0214-1	筑波大学と体育・スポーツ学分野における共同専攻の設置を目指し、共同学位プログラム等を実施する。
2013 年度計画14-1	自己評価判定Ⅳ

中項目 教育の実施体制等に関する目標

小項目 ○教育目標に沿った適切な教育実施体制及び教育環境等の整備・充実を図る。○教員の教育能力及び指導能力等の向上を図る。

中期計画 0215	社会の要請や社会情勢の変化を踏まえ、体育大学としての特性に配慮しつつ、必要に応じ教員組織や入学定員等を見直す。
2013 年度計画15-1	自己評価判定Ⅲ 教員組織を適切な教育実施体制として円滑に機能させるため、学長と教員(系組織)との意見交換の場を設け、相互の共通理解を図る。
2013 年度計画15-2	自己評価判定Ⅲ 大学を取り巻く社会情勢を十分踏まえた上で、教育の質の向上を実現しうる適切な入学定員等について検討する。
中期計画 0216	情報通信技術(IT)を活用した効果的な授業や自主学習が行える環境の整備・充実を進める。
2013 年度計画16-1	自己評価判定Ⅲ 教育環境における情報通信技術(IT)の活用を充実する。
2013 年度計画16-2	自己評価判定Ⅳ 図書館サービスの改善に取り組み、学生の学習環境の向上を図る。
中期計画 0217	授業評価調査や授業に関する研究会等のFD(ファカルティ・ディベロップメント)事業を推進する。
2013 年度計画17	自己評価判定Ⅲ FD事業を計画的に実施するとともに、必要に応じ改善する。
中期計画 0218	自己評価及び学外評価による教育評価システムを構築する。
2013 年度計画18	自己評価判定Ⅲ 教育プログラムの達成が適切に評価できるような学内評価及び学外評価に係る教育評価システムについて検討する。

中項目 学生への支援に関する目標	
小項目 ○学生生活や課外活動の支援体制を充実する。○学生の就職活動への支援を推進する。	
中期計画 0219	学生が抱える諸問題、特に経済的問題や心理・健康に関する相談・支援の機能をより効果的に高めるよう、学生生活への支援体制を点検し、充実する。
2013 年度計画19	自己評価判定 III 平成24年度に実施した学生支援体制の改善策のうち、学生相談について、その機能をより効果的に高めるよう取り組む。
中期計画 0220	重点強化競技種目・選手の選考、TASSプロジェクトの推進及びオリンピック出場に向けての特別強化への支援等、課外活動への支援を充実する。
2013 年度計画20	自己評価判定 III 重点強化競技、選手・チームの選考基準並びにTASSプロジェクトの支援体制に基づき、競技力向上を目標とした支援を充実させる。
中期計画 0221	職業観の涵養や就職活動の意識高揚を図るための取組を点検し、充実する。
2013 年度計画21	自己評価判定 III 就職関連の授業及び就職支援関係行事に関する点検結果に基づき、必要に応じ改善するとともに、学生個々の就職活動の意識高揚を図るための方策を検討する。
中期計画 0222	雇用情勢を見極めつつ、大学で培われた能力を十分に活かすことのできる進路先開拓に取り組む。
2013 年度計画22	自己評価判定 III スポーツ・健康関連企業への広報活動を点検し、進路先開拓促進の改善策について検討する。

大項目 I-2 研究に関する目標	
中項目 研究水準及び研究の成果等に関する目標	
小項目 ○体育・スポーツ及び健康に関する独創的、先端的、総合的な学術研究を進め、学際領域における実践的な研究を推進する。○生涯スポーツの普及・振興、人々のアクティブライフスタイルの形成及び競技力の向上等に寄与するため、体育学に関する研究成果を社会へ還元する。	
中期計画 0223	競技力の向上に効果のある科学的トレーニング法の構築と高度な指導システム開発に関する研究を推進する。
2013 年度計画23	自己評価判定 III 科学的トレーニング方法や高度なコーチングシステムについて、コーチ現場での実践結果を踏まえて検討する。
中期計画 0224	総合型地域スポーツクラブ等の育成プログラムの開発や、健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する研究を推進する。
2013 年度計画24-2	自己評価判定 III PALSプロジェクトにおいて、地域社会との連携・協力の下、運動による身心の健康の保持増進に関する研究を推進する。
2013 年度計画24-1	自己評価判定 III 鹿児島県内の総合型地域スポーツクラブへの中高年対象の貯筋プログラムによる指導者養成及び資料等による支援を行う。
中期計画 0225	実践的活動による検証も踏まえ、中高年者のスポーツによる健康づくりの原理を明らかにし、人々のライフステージや体力、生活環境に応じた運動処方を開発する。
2013 年度計画25	自己評価判定 III 子どもから中高年に至る貯筋プログラムに関し、各ライフステージに最適の運動処方の開発に向けた研究を進める。
中期計画 0226	競技力の向上のための科学的トレーニング法に関する研究成果を広く公表する。
2013 年度計画26	自己評価判定 III 種々のスポーツ実践におけるパフォーマンス向上に関する研究成果を、学会や関連学術誌、ウェブジャーナル等を通じて広く公表する。
中期計画 0227	健康の維持増進及び生活習慣病予防等に関する研究成果を広く公表する。
2013 年度計画27	自己評価判定 III 生活習慣病予防・改善のための運動処方開発プロジェクト(動ける日本人育成プロジェクト)の成果を、学会や学術誌等により公表する。
中期計画 0228	市民を対象としたプログラムの実施等を通じ、人々のライフステージや体力、生活環境に応じた運動処方の普及に取り組む。
2013 年度計画28	自己評価判定 III 人々のライフステージや体力、生活環境に応じた貯筋プログラムの普及状況について、調査・分析する。

中項目 研究実施体制等に関する目標

小項目 ○研究活動の質の向上と活性化のための体制を整備・充実する。○教員の研究活動に対する適正な評価とその有効活用を図る。

中期計画 0229	全学的見地から適正な研究者の人員配置を行う。
--------------	------------------------

2013 年度計画29	自己評価判定 III 研究の質の向上を図るという観点から、研究者の配置について検証し、必要に応じ見直す。
----------------	---

中期計画 0230	学内重点プロジェクトによる研究体制を充実する。
--------------	-------------------------

2013 年度計画30	自己評価判定 III 本学の柱となる全学的研究プロジェクトの体制を整備し、実施計画に沿った募集・採択、重点的予算配分を行う。
----------------	---

中期計画 0231	教員の研究成果・業績等に関する客観的評価システムを充実する。
--------------	--------------------------------

2013 年度計画31	自己評価判定 III 教員業績評価の客観性をさらに高める評価方法の改善策について検討し、教員の共通理解を得た上で、適切に実施する。
----------------	--

中期計画 0232	教員の評価結果を重点的研究資金の配分や研究環境の整備等に有効活用する。
--------------	-------------------------------------

2013 年度計画32-2	自己評価判定 III 「施設の有効活用に関するルール」に基づき、教員業績評価結果を反映させたスペースの有効活用を図る。
------------------	--

2013 年度計画32-1	自己評価判定 III 重点的研究資金の予算配分において、教員業績評価結果を活用する。
------------------	---

大項目 I-3 その他の目標	
中項目 社会との連携や社会貢献に関する目標	
小項目 ○地域への多様な学習機会の提供等により、生涯学習の普及や地域の活性化に貢献する。○産学官連携等の事業を積極的に展開し、地域産業の活性化に貢献する。	
中期計画 0233	公開講座、リフレッシュ教育・専門教育研修等、大学の教育研究資源を活用した学習機会を提供する。
2013 年度計画33	自己評価判定 III 公開講座、リフレッシュセミナー等、幅広い生涯学習支援事業を展開する。
中期計画 0234	大学の施設等を活用した大学開放事業を推進する。
2013 年度計画34	自己評価判定 III 学長杯スポーツ大会、「体育の日」の施設無料開放、学園祭における市民対象のイベント等、地域住民に向けた大学開放事業を実施する。
中期計画 0235	武道や海洋スポーツ等の振興・普及に向けた事業を展開する。
2013 年度計画35-2	自己評価判定 III 海洋スポーツの競技力向上への取組や振興・普及に向けた事業を展開するとともに、海洋スポーツに関する研究報告を行う。
2013 年度計画35-1	自己評価判定 III 地域等と連携した武道研修会や地域での剣道大会等を開催する。
中期計画 0236	地域における高等教育機関等との連携を推進する。
2013 年度計画36	自己評価判定 III 大学地域コンソーシアム鹿児島への参画等を通じて、地域の教育機関と連携した活動を行う。
中期計画 0237	大学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ(NIFSスポーツクラブ)への支援を行う。
2013 年度計画37	自己評価判定 III NIFSスポーツクラブへの指導者の派遣や施設の貸与等により、同クラブの運営を支援する。
中期計画 0238	地方自治体や企業等との共同研究・研究交流等を推進する。
2013 年度計画38	自己評価判定 III 地方自治体や企業等との情報交換会やセミナー等に参加するとともに共同研究等を実施する。

中期計画 0239	知的財産の創出、取得及び活用を推進する。
2013 年度計画39	自己評価判定Ⅲ 知的財産の創出、取得及び活用に関わる情報を収集し、学内で講習会等を開催する。

中項目 国際化に関する目標

小項目 ○国際交流・協力を推進し、大学の国際化を図る。

中期計画
0240

国際交流協定締結校との交流を拡充するとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを推進する。

2013

年度計画40

自己評価判定 III

平成23年度に策定したアクションプランに基づき検討した方策を実施する。

中期計画
0241

大学の国際化に向けた学内共同研究プロジェクトの推進やウェブジャーナルの充実・支援に取り組む。

2013

年度計画41-2

自己評価判定 III

大学の国際化に向けて、ウェブジャーナルへの掲載決定論文に英文アブストラクトを追加して掲載し、内容の充実を図る。

2013

年度計画41-1

自己評価判定 III

国際交流協定締結大学との連携により、プロジェクト研究計画を実施する。

中期計画
0242

国際シンポジウム等の開催に取り組む。

2013

年度計画42

自己評価判定 III

なし

中期計画
0243

国際交流に係る支援体制を点検し、充実する。

2013

年度計画43

自己評価判定 III

国際交流に係る支援体制の在り方について、必要に応じ改善する。

大項目 II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

中項目 組織運営の改善に関する目標

小項目 ○学長のリーダーシップを十分発揮できる戦略的・機動的運営体制を充実する。○戦略的・効果的資源配分や適切な人事マネジメントを実施し、組織の活性化を図る。○学内外の意見等を大学運営の改善に活用する。○教職員の能力開発・向上を図る。

中期計画
0244

学長のリーダーシップの下での運営体制を点検し、より充実する。

2013
年度計画44

自己評価判定 III

学長のリーダーシップをより効果的に発揮できる具体的方策について検討し、順次実行する。

中期計画
0245

大学の特色を活かしたプロジェクトへの重点的予算配分や、活動実績の評価結果を反映した教員・組織への予算配分を行う。

2013
年度計画45

自己評価判定 III

教員・組織の業績に係る評価による予算配分や予算の重点配分方法について検討し、その結果を大学の特色を生かしたプロジェクトの予算配分に活用する。

中期計画
0246

人事マネジメント方針を点検し、必要に応じ改善する。

2013
年度計画46

自己評価判定 III

人事マネジメント方針の点検結果を踏まえ、改善の必要な事項について検討する。

中期計画
0247

女性教職員の登用や教員構成の多様化等に取り組む。

2013
年度計画47

自己評価判定 III

男女共同参画推進のための行動計画についての点検結果を踏まえ、必要に応じ行動計画を見直す。

中期計画
0248

経営協議会での意見を法人の運営改善に活かすための取組を進める。

2013
年度計画48

自己評価判定 III

経営協議会において、積極的に意見交換ができる場を設け、委員からの意見を着実に法人運営改善に活かす。

中期計画
0249

監査結果及び評価結果を、大学運営の改善や教育研究の向上等に活かす。

2013
年度計画49-1

自己評価判定 III

大学や学内組織等に対する監査結果及び評価結果を、大学運営の改善や教育研究の向上等に活かすための取組を進める。

2013
年度計画49-2

自己評価判定 III

役員会構成員及び監査室員が、監事と定期的に意見交換し、監事監査結果及び内部監査結果を大学運営の改善や教育研究の向上等につなげる。

中期計画 0250	教職員の業績に対する多面的かつ公正な評価システムをより充実するとともに、評価結果に対し適切な対応を行う。
2013 年度計画50-1	自己評価判定Ⅲ 多面的かつ公正な評価システムにより教員業績評価を確実に実施するとともに、その評価結果を有効活用する。
2013 年度計画50-2	自己評価判定Ⅲ 事務系職員の人事評価について、実施要項に基づき能力評価及び業績評価を実施するとともに、評価結果を適切に処遇に反映させる。
中期計画 0251	事務職員を対象とした研修を計画的に実施し、業務に関する専門的能力や事務処理能力を向上させる。
2013 年度計画51	自己評価判定Ⅲ 職員研修計画の点検結果に基づき、改善を図るとともに、より効果的な職員研修を計画的に実施する。

中項目 事務等の効率化・合理化に関する目標
小項目 ○業務内容を改善し、事務の効率化・合理化を進める。

中期計画
0252

事務組織の機能・編成を見直すなど事務組織改革を進める。

2013
年度計画52

自己評価判定 III

事務組織の機能向上に向けた新たな取り組みについて検討し、事務処理の効率化・合理化を目指す。

中期計画
0253

業務内容を検証し、事務手続きの見直しや事務電算化等による事務改善に取り組む。

2013
年度計画53-2

自己評価判定 III

各種事務の電算化や資料のペーパーレス化など、更なる業務の効率化・軽減化に向けた取組を推進する。

2013
年度計画53-1

自己評価判定 III

事務局全体の視点から各課・係等の業務内容等を見直し、事務処理の効率化・合理化を推進する。

- 大項目 Ⅲ 財務内容の改善に関する目標
- 中項目 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標
- 小項目 ○競争的研究資金や外部資金等の獲得により、安定した財政基盤を確保する。

中期計画
0254

科学研究費補助金等競争的研究資金の獲得に全学的に取り組む。

2013
年度計画54-1

自己評価判定 Ⅲ

科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得に向け、教員を対象とした講演会・研修会を実施する。

2013
年度計画54-2

自己評価判定 Ⅳ

外部資金獲得に際し、全学を上げて戦略的に取り組めるプロジェクト等について検討する。

中期計画
0255

企業や地域社会との連携を密にするなど、共同研究・受託研究の受入れに向けた取組を進める。

2013
年度計画55

自己評価判定 Ⅲ

受託研究・共同研究の受入れに向けて、企業や地域等への積極的な広報活動を展開する。

中項目 経費の抑制に関する目標	
小項目	人件費の削減○「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間に於いて国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。
中期計画 0256	「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間に於いて、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。
2013 年度計画56	自己評価判定 III
なし	

小項目 人件費以外の経費の削減○管理的経費の削減を図る。

中期計画 0257	経費節減に向けた取組を検証するとともに、効果的・計画的な対策を講じる。
2013 年度計画57	自己評価判定Ⅲ 管理経費削減のための実行計画について実施状況を確認するとともに、更なる削減の可能性について検討する。

中項目 資産の運用管理の改善に関する目標
小項目 ○保有資産の効率的・効果的運用を図る。

中期計画 0258	施設資産について健全な状態で長期的使用を維持するための対策を講じる。
--------------	------------------------------------

2013 年度計画58	自己評価判定Ⅲ 施設整備計画に基づき、計画的な整備を実施する。
----------------	--

中期計画 0259	現有施設の学外への貸出等による保有資産の有効利用を推進する。
--------------	--------------------------------

2013 年度計画59	自己評価判定Ⅲ 平成24年度に引き続き施設の有効利用を推進する。
----------------	---

大項目 IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

中項目 評価の充実に関する目標

小項目 ○中期目標・中期計画の達成等に向けた評価体制を充実・改善する。

中期計画 0260	中期目標・中期計画の達成状況について学長のもとに的確に把握する。
--------------	----------------------------------

2013 年度計画60	自己評価判定Ⅲ 各組織の長等への学長ヒアリングを実施し、年度計画の進捗状況を的確に把握するとともに、中期計画の達成を促す。
----------------	---

中期計画 0261	評価活動に係る作業プロセスや評価基準等を点検し、評価結果を改善に活かす実効的なシステムを構築する。
--------------	---

2013 年度計画61	自己評価判定Ⅲ 法人評価及び自己点検・評価に係るシステムの稼働状況を点検し、機能性・効率性の面から必要に応じて改善する。
----------------	--

中項目 情報発信等の推進に関する目標

小項目 ○大学の諸活動に関する情報を積極的に外部に公表し、社会に対する説明責任を果たす。

中期計画 0262	大学の運営状況や諸活動等の最新情報を、ホームページ等により、迅速にかつわかりやすく外部に公表する。
2013 年度計画62	自己評価判定 III ホームページ等により、迅速で的確な情報提供発信を行うとともに、提供発信する情報の内容の充実を図る。
中期計画 0263	スポーツパフォーマンス向上に関する実践的研究成果等、特色ある研究情報を広く公表する。
2013 年度計画63	自己評価判定 III スポーツパフォーマンスの向上に関する実践的研究成果等をさらに広く公表するために、現状を点検し、改善策について検討する。
中期計画 0264	サテライトキャンパス等を活用して、首都圏への情報発信と幅広い広報活動等を展開する。
2013 年度計画64	自己評価判定 III 東京サテライトキャンパスを核とした首都圏での情報発信の充実を図る。

大項目 V その他業務運営に関する重要目標

中項目 施設設備の整備・活用等に関する目標

小項目 ○教育研究の進展、競技力向上及び学生支援の基盤となる施設環境の向上を図る。

中期計画
0265

教育研究の高度化や競技力向上のニーズに対応した施設・設備の整備を進める。

2013

年度計画65-1

自己評価判定 **Ⅳ**

施設整備計画に基づき、計画的な整備を実施する。

2013

年度計画65-2

自己評価判定 **Ⅲ**

設備マスタープランに基づき、教育研究の高度化や競技力の向上に対応した設備の導入を図る。

中期計画
0266

学生の視点に立った教育環境・生活環境の向上のための施設・設備整備や施設のバリアフリー化を推進する。

2013

年度計画66-2

自己評価判定 **Ⅲ**

キャンパス内の危険箇所等の把握に努め、適切な安全対策を検討し、必要に応じ改善策を実施する。

2013

年度計画66-1

自己評価判定 **Ⅲ**

学生サービス向上及びバリアフリー化の視点から、改善・安全対策等を必要に応じ実施する。

中期計画
0267

既存スペースの点検・評価を実施し、全学的視点に立った教育研究のためのスペースの弾力的・流動的活用を推進する。

2013

年度計画67-1

自己評価判定 **Ⅲ**

「施設の有効活用等に関するルール」に基づき、教育研究スペースの有効活用を推進する。

中期計画
0268

施設の基本情報、改修・点検履歴及び経年経過に対する改修計画等の管理情報システムを構築する。

2013

年度計画68

自己評価判定 **Ⅲ**

データベース化した施設情報を、施設業務の効率化に反映させる。

中期計画
0269

地球環境問題に配慮した施設・設備の省エネルギー対策を実施する。

2013

年度計画69-2

自己評価判定 **Ⅲ**

「国立大学法人鹿屋体育大学環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき、環境物品等の調達を推進する。

2013

年度計画69-1

自己評価判定 **Ⅳ**

「鹿屋体育大学における地球温暖化対策に関する実施計画(平成25～29年度)」に基づき、温室効果ガスの排出量削減に取り組む。

中項目 安全管理に関する目標	
小項目 ○学生・教職員等の安全の確保と健康の維持・増進を図る。○情報セキュリティを確保し、情報システムの安定的・効果的な運用を図る	
中期計画 0270	労働安全関係法令に基づく安全衛生管理体制を充実し、学内の安全確保や教職員の健康管理に取り組む。
2013 年度計画70	自己評価判定 III 学内の安全確保や教職員の適切な健康管理を堅持するなど、安全衛生管理体制の充実にに向けた取組を推進する。
中期計画 0271	自然災害や事故等を想定した危機管理体制を確立する。
2013 年度計画71	自己評価判定 III 点検結果に基づき改善した危機管理マニュアルを周知するとともに、必要に応じ改善策の見直しを行う。
中期計画 0272	情報セキュリティポリシーに則り、情報セキュリティ対策を推進する。
2013 年度計画72	自己評価判定 III 情報セキュリティ対策を実施するとともに、情報セキュリティポリシーの普及活動を行う。

中項目 法令遵守に関する目標	
小項目 ○法令遵守のための組織的取組を行い、社会的信頼を高める。	
中期計画 0273	教職員の法令遵守に対する意識の定着化を進める。
2013 年度計画73	自己評価判定 III 教職員を対象としたコンプライアンス研修を行い、法令遵守に対する意識の定着化を図る。
中期計画 0274	不正経理の防止や個人情報の適正な管理に向けて取り組む。
2013 年度計画74-1	自己評価判定 III 不正経理防止や個人情報の適正管理に関する説明会の開催等を通じて、教職員等への周知徹底を図る。
2013 年度計画74-2	自己評価判定 III 内部監査等の監査業務を厳正に行い、不正経理の防止及び個人情報の適正管理の維持・確保を図る。
中期計画 0275	入札・契約事務に関する適正性や透明性・競争性の確保についての点検等を実施し、随意契約の適正化を推進する。
2013 年度計画75-1	自己評価判定 III 「国立大学法人鹿屋体育大学随意契約見直し計画」に基づき、透明性・競争性の確保のため、情報の公開や契約事務について点検する。
中期計画 0276	ハラスメント等防止のための活動を展開する。
2013 年度計画76	自己評価判定 III ハラスメントの防止に係る啓発・研修等を計画的に行う。

平成25年度における自己点検・評価の活動状況

1. 教育研究等の質の向上の状況

(1) 教育

① 学部教育の充実

- カリキュラムポリシーに沿った教育目標の見直しを行った上で、授業科目区分を専門科目として「基礎科目A」、「基礎科目B」、「応用科目」、「実験演習科目」、「関連実技科目」、「ゼミナール（卒業研究）」を設定し、専攻科目として「専修科目」、「指導実践科目」を新たに設定した。また、それぞれの科目群の特徴（ねらい）にあった科目配置を行った。
- 教育課程改訂の検討の中で、英語科目を現行の4単位以上修得から、1年次に4単位、2年次に4単位（合計8単位）修得することに変更した。
- 従来のスポーツ指導実習、企業実習、介護等体験、教育実習から1科目以上修得することとしていたものを、平成26年度からは、スポーツ指導実習（学内外で行う地域住民等へのスポーツ指導体験）から1科目修得とすることとし、区分をキャリア形成科目から専攻科目（指導実践科目）に変更した。
- 学生に自らの将来像を明確にさせ、意識向上を図るため、キャリア形成科目（キャリアデザインⅠ・Ⅱ、キャリアセミナー、就職対策セミナー）を開講し、4年間のキャンパスデザインと、卒業後のキャリアデザインの更なる構築に努めた。また、平成26年度からの教育課程改訂の中で、これまでのキャリア形成科目の授業区分を「キャリアデザイン科目」として、キャリアデザインⅠ・Ⅱに加え、「キャリアデザインⅢ」、「キャリアコミュニケーション」、「企業実習」を新たに設定し、学生のキャリア教育を充実させた。

② 大学院教育の取組

- 東京サテライトキャンパスにおいて、修士課程及び博士後期課程の社会人コースの授業（6～7時限）を非常勤講師等により、TV会議システムを利用して実施した。
- 平成23年度から、修士課程1年次後期に、修士課程に必要な英語を修得させるために「スポーツ科学英語特講Ⅰ（必修科目）」を、修士課程2年次前期に、大学院生の国際学会での発表を支援するために外部講師による「スポーツ科学英語特講Ⅱ」を開設している。
- 大学院生を対象に筑波大学で開講されている筑波サマーインスティテュートに本学学生を派遣するため、平成25年度より旅費の支援を行うことを決定し、平成25年度（7月12日～7月19日開催）は、修士課程1名、博士後期課程1名を派遣した。
- 研究プロジェクト等の補助者（RA）として、博士後期課程学生（3名）を雇用し、総合的研究能力を育成した。
- 筑波大学との共同専攻設置に向けて、筑波大学と合同での共同専攻準備合宿研修会、スポーツ国際開発、高度大学体育指導者養成に関する合同会議等を開催し、共同専攻設置に向けた検討を行った。
- なお、本学においては、スポーツ国際開発共同専攻WG及び高度大学体育指導者養成共同専攻WGを設置し、検討を行った。
- また、12月7日に第1回「スポーツ国際開発」国際シンポジウムを、2月1日に「高度大学体育指導者養成大学院共同学位プログラムキックオフシンポジウム～新時代の大学体育を拓く指導者養成システムの構築に向けて～」を筑波大学東京キャンパス文京校舎において開催した。
- 重点プロジェクト事業（海外派遣研究員）として、新たに修士課程学生も対象とすることとし、大学院生（博士後期課程2名、修士課程2名）4名の国際学会等での発表を支援した。

③ 入学者選抜に関する取組

- 博士後期課程入試において、各国代表の選手を指導した実績を有するSC（スーパーコーチャー）を含む社会人入試5名の合格者があり、多様な人材の受け入れに努めている。
- 推薦入試における入学前教育について、アドミッションセンターにおいて、既に実施している本学AO入試における入学前教育や他大学の入学前教育の状況等を基に実施計画（案）を作成した。なお、来年度において実施計画（案）に基づく、試行を予定している。
- 平成24年度に引き続き、アドミッションセンターにおいて、入学前後の競技・学業成績等のデータを蓄積し、「体育学部入学者選抜に係る追跡調査結果」としてまとめ、教授会において示した。

④ 教育方法の改善

- スポーツの実践的指導力養成をより充実・実質化するために「診断力と処方力に基づくコーチング力の養成」スポーツの実践的指導力高める教育プログラム」に取り組んだ。実技実習科目を通じて、スポーツ指導に必要な「診断力」、「処方力」、「コーチング力」を養成するために、平成25年度は、実技実習科目において「スポーツコーチングプログラム」の導入を図り、理論科目において「コーチング映像データベース」を活用した講義を実施した。この取組により、情報通信技術を活用し学生個人の映像を基に運動の診断と処方を行うことでスポーツの実践的指導力を養成する教育プログラムを開発することができ、報告書としてとりまとめた。
- FD事業として、授業評価アンケート、授業参観、FD講演会、FD研修会、e-Learning研修会、TA研修会を開催した。

⑤ 学習環境の整備・改善

- 附属図書館では、新たに企画展示コーナーを設け、新入生向けの「大学での学び方が分かる本」などテーマに沿った書籍の紹介を行った。
- また、学生からの要望が多かった開館時間の延長を試行的に実施することとし、学期中の6月に月・水・金曜日は22時まで開館、土・日曜日は9時から21時まで開館し、試験前2週間及び試験期間（7月、2月）に、平日は22時まで開館、土・日・祝日は9時から22時まで開館した。

⑥ 教育の実施体制

- 体育学部においては、教育課程の改訂に向けて、カリキュラムポリシーを新たに制定した。併せて、平成25年度までに制定したディプロマポリシー（学位授与の方針）及び教育目標について見直しを行った。
- 大学院体育学研究科においては、アドミッションポリシーや目的等を踏まえて、ディプロマポリシー（学位授与の方針）及びカリキュラムポリシーを制定した。

(2) 研究

①大学の特性を活かした特色ある研究

- 本学中期目標・計画に合致した特色ある研究プロジェクトに対し、重点プロジェクト経費（学長裁量経費）を措置した。プロジェクト終了後、成果報告会を開催し、各担当者が事業成果を発表した。
- 学生の競技力向上を目的に、TASS (Top Athlete Support System) プロジェクトにおいて、女子バレーボール、水泳、自転車、カヌーの4競技を対象に研究プロジェクトを実施し、国際大会や全国大会で入賞等の実績をあげた。
- PALS (Promotion of Active Life Style) プロジェクトを引き続き実施し、「医療費の軽減を目指した貯筋運動のプロモーションと効果測定」、「高齢者の移動能力維持に必要な体力水準および身体活動水準に関する研究」を推進した。
- 全学的に取り組む研究プロジェクトに若手研究者のアイディアを取り込むため、「若手研究者の夢を語る会」を開催した。出されたアイディアを基に、今後、概算要求等の予算要求をしていくこととした。さらに次年度以降、研究プロジェクトを立案することとした。

②地域貢献につながる研究

- 鹿児島県志布志市等、地域自治体と連携して、「NIFSみんなの貯筋研究プロジェクト」に取り組み、各ライフステージでの適切なトレーニング方法と効果について、実験・測定による科学的検証を行った。同プロジェクトの研究成果については、NIFSスポーツクラブ（本学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ）が実施している「貯筋サークル」のスポーツプログラムとして活用した。
- スポーツトレーニング教育研究センターにおいて、県内の5小・中・高校の研究協力校と学校教育で実践が可能な体力増進プログラム等の共同研究を進めた。
- 海洋スポーツセンターにおいて、鹿屋市と連携し、大隅半島における海洋スポーツ資源に関する調査を実施し、学習プログラムおよび教育旅行プログラムを提案した。

③研究成果の公表

- 数多くの実践例を取り扱い、体育・スポーツの実践系・指導系の教育的、学問的価値の確立とその発展を目指すウェブジャーナル「スポーツパフォーマンス研究（平成21年3月創刊）」に、平成25年度は、新たに24編の論文を掲載・公開（合計116編）し、スポーツ実践活動に直接寄与する知見等をウェブ上で提供した。

(3) 学生支援

①学生の視点に立った支援

- 多様化している学生の悩みや心の問題に対応する教職員のカウンセリングマインドの向上を目的として、毎年度実施している学生対応のためのメンタルヘルス講演会（「演題：傾聴と自己理解を通じたメンタルヘルス」）を12月12日に実施し、32名の教職員が参加した。
- 平成24年度に、学生相談情報の一元化・共有化のために作成した「学生相談等情報記録簿」と情報の共有化について、点検と改善を行った。
- 文部科学省からの補助金事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」として、専門家等の外部講師による講話等を行うことや社会人基礎力調査を行うことにより、学生の就職への意識向上を図った。
- 教職員で構成されている学生相談支援室主催で毎年度実施している「なんでんかんてん語ろう会」（参加者：学生42名、教職員20名）において、学生から事前に提出のあった意見・要望に対して、大学からの回答を行った。
- また、平成25年度は、新たに「大学をよくするため、みんなで語って改善したい事」をテーマとして設定し、「理想の大学像」、「理想の体育大生像」について、学生と教職員がグループディスカッション形式で意見交換を行い、今後の学生支援の方策を検討するための参考とした。
- なお、「なんでんかんてん語ろう会」で提出された意見については、学内の掲示板により当日参加できなかった学生、教職員に周知し、共通認識を図った。
- 「学生スポーツボランティア活動」において、学生の実践的指導力の向上を図るため「学生スポーツボランティア支援室」が中心となり、地域の学校やスポーツ団体でのスポーツ指導を希望する学生の派遣等に関する支援を実施した。

②競技力向上への支援

- 競技力向上に資する新たな方策として、TASSプロジェクト、オリンピック特別支援の見直しを行い、TASSプロジェクトは、より研究プロジェクトとしての効果を強く打ち出す内容に改め、後者については、オリンピックに特化せず、オリンピックを始めとした国際大会での活躍を目的とした支援要項を策定した。
- 競技力向上委員会において、重点強化指定選手及び重点強化指定チームとして、それぞれ47名、5チーム(47名)を指定し、競技力の向上に向けた重点的支援を行った。その結果、累計で、全国大会での優勝(個人53名・団体6チーム)、国際大会への出場(37名、うちメダル獲得者(優勝2名、3位以内9名)11名)の成果を挙げた。

③就職支援

- 学生の将来に対する意識を向上させるため、キャリア形成科目としてキャリアデザインⅠ・Ⅱ、キャリアセミナー及び就職対策セミナーを開講し、授業においてOB・OGや専門家などの外部講師による講話を行うことにより、在学中のキャンパスデザイン及び卒業後キャリアデザインの更なる構築に役立てることができた。
- 「就職ガイダンス」、「OBからの特別講演会」、「就職塾」、「学外合同企業ガイダンスバスツアー」、「個別会社説明会」、「教員・公務員模試」、「教員対策勉強会」などを実施し、多様な企画を通じて学生の就職活動を支援した。
- 本学公式ホームページに、「キャリア形成支援室」のサイトを立ち上げ、在学生だけでなくOB・OGに対しても、キャリア教育への取組や就職支援の情報等を発信した。また、就職情報をポスター等の紙媒体やディスプレイによるデジタル広報、SNSを活用して、OB・OG訪問先の検索やメールによる情報案内等を促進することにより、学生へリアルタイムな情報提供ができるようにした。
- 講義棟の一室を学生の就職活動の場として開放し、就職情報資料を配置、情報収集用として貸出用端末(iPad)を準備するなど就職情報の提供や情報交換の充実を図った。
- また、本事業で本学におけるキャリア教育の企画調査等を主業務とするプロジェクト研究員を「特任助教」として教育にも従事させることにより、学生に向けた実践的キャリア教育を充実させた。

④その他の学生支援

- 毎年度、競技成績・学業成績優秀者に対する本学独自の授業料特別免除及び入学科特別免除の制度を利用した学生への経済支援を行っている。平成25年度は、33人(入学科免除9名、授業料免除24名)に9,772千円の免除を実施した。
- 毎年度、学業成績優秀者、競技成績優秀者及びその他優秀者に対して学生表彰を行っているが、平成25年度から、学生表彰の中に競技成績優秀な学生で世界規模の大会に出場し、かつ優秀な成績を挙げた学生に対する「学生特別表彰」を新たに設置した。(平

成25年学生表彰実績 学業成績優秀者：3名、競技成績優秀者：個人18名、2団体、特別表彰4名)

●「学長と外国人留学生との懇談会」を開催し、留学生から勉学・研究状況について報告を受け、今後の環境改善に活かすこととした。

(4) 社会との連携・国際交流

①地域との連携活動

●鹿屋市との包括連携協定に基づき、産学官連携による「スポーツ合宿まちづくり推進事業」を展開し、鹿屋市等と協力してプロ野球選手、プロゴルファーやVリーグチーム（バレーボール）を受け入れ、合同合宿や動作解析等による支援を行った。

●鹿児島県教育委員会と連携して、海洋スポーツセンターにおいて「パワーアップ研修」を実施し、参加した鹿児島県教員の能力向上を図った。

●スポーツトレーニング教育研究センターにおいて、「スポーツリフレッシュセミナー」を開催し、参加した地域の中学校、高等学校、特別支援学校の保健体育担当教員及び運動部活動指導者等に対して、体育・スポーツ及び健康に関する専門的研究や最新のトレーニング法の研修を行い、指導者の資質向上を図った。

②地域への生涯学習機会への提供

●本学を基盤とする総合型地域スポーツクラブ「NIFSスポーツクラブ」に対し、体操、サッカー、テニス、陸上及び貯筋の5種目で指導者の派遣及び体育施設の貸与を行った。また、同クラブが8月に本学及び大隅青少年自然の家で開催した「ジュニアスポーツキャンプ」、1月に本学で開催した「貯筋運動指導者講習会」については、講師の派遣を行うとともに、運営の面で支援を行った。

●毎年度、体育大学として特色ある講座を含む公開講座を開催しており、平成25年度は、本学を会場とする11講座（健康講座：2、スポーツ講座：9）、東京サテライトキャンパスを会場とする2講座（一般教養：1、健康講座：1）、かごしま県民大学との連携による2講座（一般教養：1、健康講座：1）を開講し、地域住民へ生涯学習の機会を提供した。

③その他地域貢献活動

●学長杯オープンヨットレースを開催し、海洋スポーツの振興・普及を図った。

●海洋スポーツセンターの施設利用について11団体（約1,200名）へ使用を許可した。鹿屋市立高須中学校等の教育機関に対しては、体験学習のための指導を行った。

●毎年度開催している学園祭（蒼天祭）において、大学全体で取り組む大学開放事業の一環として、学生と教職員が共同し、地域住民向けに「学長杯破魔投げ大会」やイベントの開催、教育・研究成果のポスター展示等を行った。

●「鹿屋杯全国高等学校選抜剣道練成大会」の開催や、「子どもゆめ基金体験の風リレーシヨシップ事業：平成25年度おすすめくん家スポーツキャンプ剣道編」における鹿児島県内の中学生及び指導者への講話及び実技指導、肝属地区柔道会からの依頼による講演や学生審判員派遣により、武道を通じた人材育成、武道の振興・普及を図ることができた。

●学長杯大隅地区少年・キッズサッカー大会を開催し、地域のスポーツ活動の振興に寄与した。

④産学官連携の活動

●鹿屋市内の企業と共同研究で開発したスポーツ実施者向けサプリメント「スポーツハイブリッドサプリ」について、平成25年8月1日付けで商品化契約を締結し、平成26年2月に記者発表を行い、商品として販売を開始した。

●東京都や大阪府などで事業展開している企業及び鹿屋市との産学官連携プロジェクトを実施し、本学は鹿屋市の食材を多く使用したスポーツ栄養学に基づく食事メニューを監修した。当メニューを提供する「鹿屋アスリート食堂」が本学のすぐ近くに開店することとなり、本学学生の食環境の改善が期待される。

●茨城県坂東市、鹿児島県志布志市と受託研究を実施し、貯筋運動による定期的な運動介入がもたらす身体的、社会的効果の検証を行った。

●鹿屋市との産学官連携による「スポーツ合宿まちづくり推進事業」として、プロ野球選手、プロゴルファーやVリーグチーム（バレーボール）を受け入れ、合同合宿や動作解析等による支援を行った。

●外部から専門家を講師として招いて「知的財産セミナー」を開催し、教職員・学生への知的財産に関する理解を深めることができた。

⑤国際交流の推進

●国際交流協定校である国立体育大学（台湾）において、留学生受け入れ推進のため、大学説明会を開催した。

また、コーチング講習会として「柔道に関する指導と理論」をテーマに5日間にわたって指導した。

さらに、国立体育大学（台湾）の大学院生に対して、「高齢者の健康促進に関する理論と実際」をテーマに、スカイプを用いて9回の授業を行った。

2. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する重点的取組

①大学運営の機能強化

●連携協定を締結している筑波大学との大学院共同専攻設置に向けて連携を強化するために、東京サテライトキャンパスを筑波大学東京キャンパス文京校舎へ移転して「筑波大学・鹿屋体育大学連携推進室」を設置し、筑波大学との連絡調整等を行うために、助手1名を配置した。

②計画達成への取組

●年度計画の進捗状況を学長自ら確認するために、各課・室及び学内共同教育研究施設等（センター）の長に対して、学長によるヒアリングを実施し、実施が遅れている計画について、速やかに対応を行うように促した。

●年度計画の策定にあたっては、計画達成への取組が円滑に行えるように、年度計画毎に実行計画（アクションプラン）を盛り込む工夫を行っている。

③監査体制の充実

●平成25年度監事監査結果について、「監事監査結果説明会」を開催し、監事と執行部との意見交換を通じて指摘事項の共通理解を図り、今後の業務改善に活かした。

●平成 25 年度に監査室が実施した各監査結果内容を大学運営等の改善に繋げるために「監事と監査室との意見交換会」を実施し、監査体制の向上を図った。

④事務の効率化・合理化

- 旅行命令及び旅行申請等事務について、平成 25 年度から、教職員が各自で入力する「出張旅費・研修システム」の運用を開始し、事務の効率化・合理化を図った。
- 各種委員会の議題入力や委員の出席状況把握、年度計画の進捗状況入力、教員業績評価や認証評価のための関係資料収集を行うために、本学独自に構築した各システムを「事務局システム」として集約し、諸作業の省力化を図った。
- 入試成績の個人情報開示について、本学独自で開発した「入試個人情報開示システム」を構築し、4 月から運用を開始した。

(2)財務内容の改善に関する重点的取組

①外部資金獲得のための取組

- 科学研究費補助金獲得のために、戦略的研究プロジェクト企画推進室において、補助金獲得のための戦略的具体策を検討し、外部講師等による説明会の開催（参加者 42 名）、室員によるアドバイス、参考資料購入等、採択に繋げるための支援を行った。その結果、新規の採択件数が大幅に増加した。
- 受託研究や共同研究の受入れ増加を目指し、広報誌「Renkei」の最新刊を関係機関に送付して広報活動を行った。

②経費の抑制に関する取組

- 管理的経費削減推進検討会を開催し、各課における前年度の取組目標に対する実施状況を確認した。また、保有車両の効率的な運用等について検討を行った。

(3)自己点検・評価及び情報提供に関する重点的取組

①評価の充実に関する取組

- 年度計画の進捗状況を確認するために、本学独自に構築した「年度計画進捗管理システム」（しんちよくシステム）により集中管理し、計画達成に向けた措置を講じるとともに、法人評価における自己点検・評価に活用している。
- 重点プロジェクト経費で実施した事業については、事後評価を行い、次年度以降の採択に反映させている。

②情報発信等の推進に関する取組

- 「国立大学法人鹿屋体育大学の広報活動における基本方針」（平成 19 年 12 月 6 日）に基づき策定した「平成 25・26 年度鹿屋体育大学広報行動計画」により、計画的かつ効率的な広報活動を行った。
- 本学の諸活動を速やかに本学ホームページに掲載するなど、インターネットを活用した情報発信を行った。
- 本学の東京サテライトキャンパスを首都圏における情報発信の拠点として公開講座、大学説明会等を開催し、その活動状況を本学ホームページにて紹介した。

(4)その他の業務運営に関する重点的取組

①施設設備の整備・活用等に関する取組

- スポーツパフォーマンス研究推進のために、概算要求対象事業として要求していたスポーツパフォーマンス研究棟(仮称)整備が事業決定し、平成 26 年度内竣工に向けて整備を進めた。

②安全管理に関する取組

- 4 月の新入生オリエンテーションにおいて、「危機管理マニュアル」を配付し、防災意識の向上と定着化を図った。
- 教職員の安全衛生に対する意識の向上を図るため、AED 講習会を 2 回（7 月、8 月）実施した。

③法令遵守に関する取組

- コンプライアンスに関する研修として、鹿屋警察署職員の講話及びDVD視聴による「交通法令に関する講演会」を開催し、法令遵守に対する意識の定着化を図った。
- 個人情報の適正な管理を行うため、全事務職員を対象としたDVDを活用した研修会を実施した。
- 平成 24 年度に作成したパンフレット「鹿屋体育大学情報セキュリティのすすめ」を改訂し、教職員へはメール及びパンフレットの配付により、学生にはパンフレットの掲示によりそれぞれ周知を行った。